

## 令和6年度第1回新居浜市史編さん審議会 会議録

- ・日 時：令和6年6月26日（水）10：00～11：00
- ・場 所：市役所5階 大会議室
- ・出席者：会長 原 一之、副会長 高橋 聡、委員 末岡 照啓、委員 藤田 達生、  
委員 藤田 敏樹、委員 大森 隆史、委員 山内 隆夫、委員 吉本 拡、  
事務局5名
- ・欠席者：委員 尾崎 恵、委員 竹林 栄一
- ・傍聴者：1名

### ・会次第

- 1 会長挨拶
- 2 令和5年度市史編さん事業実施報告  
質疑応答・意見
- 3 令和6年度市史編さん事業計画  
質疑応答・意見
- 4 その他

### ・発言要旨

#### 1 会長挨拶

#### 2 令和5年度市史編さん事業実施報告

（事務局）

##### （1）刊行計画の概要について

新居浜市史刊行計画（令和4年6月改訂）に基づき、「史料編 古代・中世」、「部門編 新居浜太鼓台」、「通史編 古代・中世」の刊行に向けて取り組んできた。今後、合計13冊を刊行予定としているが、全体の完結年は令和14年度を予定している。

##### （2）事業実施報告

#### ア 古代・中世専門部会

掲載史料の選定を行った。

東京大学史料編纂所、山口県文書館にて原本確認及び新出史料の調査を行った。

『新居浜市史調査報告書 与州新居系図』600部を、令和6年3月1日に発行した。

## イ 近世専門部会

古文書調査（天野家文書、千種家文書、黒川家文書等）を行った。

## ウ 近代・現代専門部会

古文書調査、新聞記事、行政資料、統計資料の収集・整理を行った。

## エ 太鼓台専門部会

古文書調査、新聞記事、行政資料の収集・整理を行った。

## オ 啓発事業

（ア）歴史記念講演会「金子備後守と天正の陣」（講師：藤田達生氏）の開催

日 時：令和5年9月30日（土）13：30～15：00

場 所：あかがねミュージアム

参加者：約200人

（イ）昭和の写真展の開催

市役所ロビー展（令和5年6月5日～9日）

新居浜市立図書館ロビー展（令和6年1月5日～12日）

## カ 『新居浜市の歴史』について

令和5年度の販売数は74冊で、残数は186冊となっている。

質疑応答・意見

（吉本委員）

・「現代」をどこまで扱うか、今後検討してほしい。

（末岡委員）

・「現代」については、戦後史を充実させる必要がある。市史を通して今の新居浜市について考えてもらい、次の100年への展望を与えるものにしたい。

（吉本委員）

・市史の意義として、市民の身近にある歴史を取りこぼさないでほしい。

（藤田達委員）

・金子家文書の調査を通じて、国人クラスの武将が遺した古文書の価値について再認識した。天正の陣にかかる時期は文書数が増加するが、その内容理解は難しい。史談会等の反

応や視点を大切にし、身近な出来事について市史にも反映していきたい。

- ・戦争については、本質を見極め、客観的な判断とそれに基づく記述を心がけたい。

(藤田敏委員)

- ・刊行予定の冊数について、市民は過去の市史のように1冊の刊行と思っている。複数冊の刊行を予定していることを周知していくべきではないか。
- ・刊行される市史の判型は決まっているのか。

(事務局)

- ・刊行予定の冊数の周知については、今後、啓発事業と併せて周知していく。
- ・冊子の判型については、基本はA5版、500ページ程度とし、写真を大きく載せたい太鼓台編等についてはA4版を予定している。

### 3 令和6年度市史編さん事業計画

(事務局)

#### ア 古代・中世専門部会

史料編の解説執筆、掲載史料の文字データ化を計画している。

#### イ 近世専門部会

史料調査の継続、目次案検討を計画している。

#### ウ 近代・現代専門部会

史料調査の継続、市制施行以前の各町村資料の調査、新聞記事調査、目次案検討を計画している。

#### エ 太鼓台専門部会

歴史資料と民俗資料の収集、各太鼓台関係者等との連携、各太鼓台の写真撮影、アンケート調査、執筆者選定を計画している。

#### オ 啓発事業

(ア) 歴史記念講演会「与州新居系図と新居氏の活躍」(仮題)(講師:山内譲氏)の開催

(イ) 昭和の写真展の開催

(ウ) 市政だより「新居浜の玉手箱」の掲載

## 質疑応答・意見

(山内委員)

- ・収集した史料の管理と公開について、今後どのように考えているか。

(事務局)

- ・収集した史料は、将来的に公開・活用できるように取り組んでいく。

(末岡委員)

・公文書の保存と公開は、行政機関と研究機関と一緒に検討していく必要がある。まずは史料の散逸を防ぐ事が第一であるとする。

市史が完成したら終わりではない。未来を考えるために我々は歴史を編さんしている。どこかの時点で再度過去の総括を行う時がくる。そのためにも、史料を次の世代に残す必要がある。

(吉本委員)

- ・生涯学習やまちづくりに活かせるような市史を編さんしてほしい。

## 4 その他

特になし

以上